

令和2年度国際理解ワークショップ タイトル・要旨一覧

大学名	テーマ	代表者名	タイトル	要旨	WS形式 (対面・オンライン・どちらも可)
新潟国際情報大学	世界の現実	瀧澤悠	うまい食事、まずい環境	食は私たちが生きるために必要不可欠だ。しかし、現在世界では、食料が食べられる状態なのに廃棄されてしまう「食品ロス」という問題がある。日本では年間600万トン以上が廃棄されており、最近では新型コロナウイルスの影響で食品ロスはさらに深刻化している。これらの食料を処理する過程でも沢山の温室効果ガスが発生する。このワークショップでは世界の食品ロスの問題を取り上げ、私たちの行動が環境に大きな影響を及ぼしていることに気づいてもらいたい。また、どうしたら食品ロスを減らしていけるのかということに参加者と共に楽しみながら考えていく。【SDGs目標:②⑦⑫⑬】	どちらも可
	世界の不平等	上村菜々美	教育を受けられるって当たり前！？ ～コロナによってより悪化した世界の不平等～	6400万人。この数字は学校へ行けない15歳未満の子どもの累計である。日本では制度上、教育を当たり前に行うことができるが、世界に目を向けると、そうではない。そして2020年、新型コロナウイルスの蔓延により従来通りの学習が困難になったことで、インターネット等の環境が整っていない子ども達の教育の機会が奪われ、教育格差がさらに広がっている。新型コロナウイルスの流行により明らかになった教育の格差は持続可能な社会をつくるにあたって大きな壁となるだろう。この現状を仕方ないで終わらせてはいけない。そこで、このワークショップでは、コロナ時代にさらに拡大した教育格差をなくすために、次世代を担う仲間達と共に、私たちに何ができるかについて考える。そして、教育がどれほど大切なのかに気づいてほしい。【SDGs目標:④⑩】	どちらも可
	異文化理解	石本純也	コロナから見る差別～差別を知ったこれからの私～	現在、新型コロナウイルスが世界中で蔓延していることにより、様々な形で差別が助長されている。世界で起こっているそれらの事例を取り上げ、『差別の成り立ち』を知る。さらに、私たちが無意識のうちに差別の被害者にも加害者にもなってしまっていることに気づいてもらいたい。またこれらの原因に価値観の違いが関係していることを知る。その上で一人一人がこの問題とどのように向き合っていくのかを参加者と共に考えていきたい。(このワークショップはSDGsの目標16(平和と公正を全ての人に)に関係しています。)	どちらも可
敬和学園大学	世界の現実	佐々木 亮輔	みんなで守ろう地球！～多様な動物とともに、生きていくために～	私たちの世界には人間だけでなく、数多くの動物たちが生きています。しかし、多くの生物が人間のエゴによって数を多く減らし中には、地球から姿を消した生物も多くなります。今までのことから命や生物を飼うことへの責任などを、講義をうけることによってわかって欲しいことをクイズや劇などをもちいて説明していきたいと思います。	どちらも可
	異文化理解	佐々木 亮輔	セカイをかんがえる会。	私たちの国にある文化は海外では存在するのか？あったとしたらどんな事をしているのか？など異文化についてワークしたいと思います。例えば、お盆ででてくる食べ物やルールなどが海外では、メキシコの死者の祭りみたいにお祭りをしながら死者のことをとむらうことをしています。クイズや劇を基に自分の文化だけが正しいのではなく、異文化もあって楽しいね、という心をもって欲しい。	どちらも可
新潟県立大学	世界の現実	鈴木詩生里	V.E.G ～世界に通ずる新しい食文化～	ベジタリアンやヴィーガンのライフスタイルを通して、動物や地球にやさしい食事について提案する。導入部分では、それぞれの定義を説明し、日本と世界の認識の違いを確認する。最後に野菜中心の食事を考える活動を行い、ベジタリアンやヴィーガンへの当事者意識を抱いてもらうことをねらいとする。また食べ物だけでなく化粧品等のオーガニック製品について紹介し、菜食意識に目を向けた生活を身近に感じてもらう。	オンライン (zoom)
	異文化理解 (英語)	一刀千尋 宮内桜子	あなたの眼鏡は何色？ ～多様な世界を見渡してみよう～	ことわざの違い、国ごとに異なる動物の鳴き声、外来語、美の定義などの具体的なテーマを用いながら文化の多様性に気づき、先入観なしに様々な文化に触れることの重要性を伝える。さらに、近年黒人に対する人種差別など異文化間での衝突が問題視されており、世界中の関心が高まったことで、私たちが文化の違いに対する興味を持った。またワークショップを通して生徒たちにも文化の違いに関心を持ってもらいたいと考え、このテーマを取り上げたいと思う。	オンライン (zoom使用予定)
新潟大学	世界の現実	花岡沙紀	性別の多様性について考えよう	日本には古くから控えめで奥ゆかしい女性を例える言葉として「大和撫子」という言葉がある。同様に男性らしさを例えるような「大和男児」という言葉もある。これらの言葉からも、かつては「男性らしく/女性らしく」振る舞うことは重要であり、また、「大和撫子」や「大和男児」は「褒め言葉」とされていた。しかし昨今では必ずしもそのような言葉が「褒め言葉」ではなく捉える人によっては苦しんでしまう原因にもなりかねない。そこで前半部分では性別に関する「言葉」について多様な事例を挙げ一般的な見解を理解し、近年の性別の多様性(LGBTなど)について考えてもらう。後半部分は少数派とされがちなLGBTの方々の多様な場面での苦労や困難などを紹介した上で、いかにして社会の中ですべてのひとりに暮らしていくか、それらの問題を解消できるかを考えてもらう。	オンライン (zoom)
	世界の不平等	奥村 夏子	日本と世界のジェンダーギャップ	世界経済フォーラムが毎年発表している世界男女格差ランキングを軸として、日本のジェンダーギャップの現状を明らかにする。前半ではこのランキングに関わるデータをクイズを交えながら紹介し、問題意識を共有する。後半では特に政治分野における男女格差に注目し、近年多くの国で改善策として採用されているクォータ制を紹介する。最後にグループワークでクォータ制のメリット・デメリットを考え、日本でも導入するべきか否かを議論してもらう。	オンライン (zoom)
上越教育大学	世界の不平等	中嶋能亜	たくさん売れるバナナで貧しい暮らし！？	今日、先進国における農業優占国からの輸入が被輸入国に対し、大きな貧富の格差を生起させてしまっている。本ワークショップでは、フィリピンのバナナを題材に、海外で問題になっている絶対的貧困について、世界の貿易システムの実態を明らかにすることで不平等があることを理解し、それらを解決する手段としてフェアトレードがあることを説明する。身近な事例を焦点化し、他人事から自分事の問題として考えること、またそれによる思考、行動(長期的)の変容を目指すこととした。	対面
	異文化理解	菊池 徹	ちがいのちがいがい	本ワークショップのテーマは、「多様性と包摂」である。はじめに、「大切なものは何？」の問いから同じクラスの人同士のちがいを認識する。次に、「ちがいのちがいがい」というカードを使って「あっても良いちがいがい、あってはいけないちがいがい」について3～4人のグループで対話をする。そして、対話したことからの気づきを共有した上で、(自分の当たり前が、他の人の当たり前でないことに気づき)これから生きていく中で大切にしていきたいことは何かについて考え、ワークシートに自分の考えを記述する。	どちらも可 (zoom/Google Meet)